

# いの流水俳壇

友章 水月選

## 大国様献句俳句大会

「季題」大国様、仁淀川、土佐和紙、当季雑詠

神の庭<sup>か</sup>葉の緒こぼす秋の音

島田 瞳

(評) 拜殿で葉の緒を振って鈴を鳴らし拍手を打ち響かす家族の健康安全を祈った。神社の庭の澄んだ空気の中に鈴の音がこぼれるように広がり、その澄んだ音に秋だなあと感じたのである。この句の良さは「こぼす秋の音」と音で秋を感じたことである。本句会での最高の九点句である。

神社での参拝の仕方は普通二拝一拍手一拝であるが、一拍手や四拍の神社もある。○くろがねの秋の風鈴鳴りにけり

飯田 蛇笏

屋形船抜きつ抜かれつ赤とんぼ

森岡 照月

(評) 乗った屋形船のまわりに赤とんぼが群れており、舟がとんぼを追い越したり、とんぼが舟を追い越したりの下りの風景。この句の良さは抜きつ、抜かれつとその情景を具象的に詠んでいる点であり情景が良くわかる句である。句会次点の七点句である。

仁淀川では一昨年から屋形船が誕生し、中流の柳瀬地区の川を往復2km、時間で約50分位岩を噛む急流はないが夏の風物として楽しめる。

○霧島は霧にかくれて赤とんぼ

種田山頭火

涼新た吉のみくじのゆる結び

宇賀 佳世

(評) やっと涼しくなったので近くの神社に

参拝し、お神籤を引いたら「吉」と出た。吉ならまあよしとするかと杉に軽く結んだのである。この句の良さは、上五の「涼新た」の響きであり、下五の「ゆる結び」と具象的に目に見えるようである。季語の「涼新た」とは初秋のころのこと、「新涼」とも言う。大国様の拜殿の右手に二つのお神籤箱が設置されている。一つは大人用、もう一つは子ども用と書かれており、その隣りに杉の木があり「結び杉」との立札が立っている。○新涼の浅間晴れんとして蒼し

長谷川かな女

### 二句抄

みくじ結う小吉なるも秋高し  
いの風紙濃く匂いふとよぎる

片岡 包女

石清水竈に受けて紙の村

山本 正男

結漁の投網ふた手に空を切る

山本 明治

秋の波土佐典具帖紙かみの粹

鎌倉 隆一

仁淀川怒れば濁流龍の腹

竹崎たかひろ

秋立ちぬ流れは清し紙の町

津田 久美

今宵限り命燃やして月下美人

橋詰登志子

秋空や宮の大樹のなほ高く

久美 浩太

い話しよう米寿の敬老日

大川 節弥

新涼や真清水池の鮎の口

小野川町子

神木の梢より落ちくる秋の声

松尾満津於

瑞穂の田ふりかえみれば赤トンボ

岡村 嘉夫

玉砂利を踏めばおのずと秋気満つ

川村 博子

幾千代も続くは美はし宮秋灯

宇賀 佳世

向かい合う狗吠虫の声を聞く

小野川町子

社殿吹く風鈴の緒をゆらし秋

松尾満津於

いの町の歴史混ぜ込み紙を漉く

岡村 嘉夫

御手洗に少し秋冷感じお

川村 博子

狗吠の迎えくれお秋の同座

宇賀 佳世

行秋の妻に随ふ何やかや

小野川町子

幾星霜歳を重ねし杉木立

松尾満津於

蔵造り色なき風の紙の街

岡村 嘉夫

爽かやすくと伸ぶ神の杉

川村 博子

水清し虹の彩生む紙の町

宇賀 佳世

中吉を読んで爽やか結び杉

宇賀 佳世

島高に追われころんだ秋祭り

宇賀 佳世

一掬の神水を汲む秋の巫女  
福依幸せ運ぶ秋の風  
曲り入る路地は白壁秋海棠  
踏みしめる玉砂利の音すでに秋  
木漏れ日の匂うて九月みくじ結う

名句鑑賞

水月

石山の石より白し秋の風  
奇岩の重なるこの那谷寺は石川県小松市にあり、その石は近江の石山寺の石より白く、折から白風と呼ばれる秋の風が吹き渡り、二層清澄な気分になせられたと詠んでいる。しかし、そればかりではなく、この地が地理的に歴史的に白山信仰と深い繋がりがあり、岩盤の洞窟や「胎内めぐり」などは、新しく生まれ清まるという白山信仰の「白」の信仰とも深い関わりがあるのではないだろうか。秋の風がいよいよ清澄な風を感じさせ、この地を浄化しているように感じる一句である。

私と俳句

友章 水月

私が確か小学校六年生の時、当時担任のM先生に俳句を初めて習った。文字は一七文字で必ず季節が入ることであった。早速宿題に皆一句を作ってみるようになった。なかなかできない。古本をあさっていると俳句の本があったのでこれこれとの中から一句を頂いて翌日提出した。先生は「これは自分が作ったかね。」「はいそうです。」「そうかね。」とだけ言われた後で判ったことであつたが、有名な俳人の句であつたことを知った。恥ずかしいやら悪事をした気持ちで一杯であり謝らうと思つたが、もうその先生は転勤されてお目にかかるとはなかつた。

次題 「当季雑詠」五句  
締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課

89312012

## 今月のごども川柳

あいさつは 人の心を 動かすよ

川内小 5年 田村 将寛

(評) 元気のいいあいさつには、元気をもらい気持ち明るくなる。そんなあいさつをする相手の、心の動きがわかる川柳がうれしい。

一りんしや まだまだれんしゅう たりないよ

長沢小 4年 黒石 香里

(評) 一輪車の練習大変だね。大分上手に乗り出したが、もう少し自信のつくまで練習をして行こう。がんばり屋さんの4年生、ケガをしないよう気を付けて。

すず虫の なき声聞けば いやされる

枝川小 5年 山岡優一郎

気もちいい 朝の結ろが キラキラと

長沢小 6年 山川 夏実

あさごはん 元氣いっぱい たべようよ

川内小 2年 千田 美海

ゆめのほし きぼうとみらい いののまち

伊野小 4年 田村 せな

火がもえて 秋はやっぱり やきいもた

川内小 5年 高橋 奈甫

ころがけ なかよくなるよ たのしいね

伊野小 2年 塩田 ゆめ

けんこうで いられることは すてきだね

伊野小 4年 松本 しほ

あせをかき 水分取つての くり返し

枝川小 5年 伊藤 祥吾

※「ごども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは11月10日(月)です。たくさんの方の応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)